

事業評価シート（平成24年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	高齢者・障がい者のごみの戸別収集事業		
事業担当	環境部 循環型社会推進課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'03	③〈健康・安心・福祉力〉その人らしく安心して暮らせる生活を支援する	
	'01	1 総合的なサービスを展開する地域ケア体制を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	独居高齢者、障がい者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
市民生活を支える多様な地域活動や、医療、福祉を始めとした総合的なサービスが充実し、年齢や障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で誰もがその人らしく安心して暮らしています。		地域福祉の推進体制を充実するため、高齢者や障がい者で、ごみを集積所に運ぶことができない方を対象に戸別に収集するサービスを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	1世帯当たりの年間収集回数			単位	回
	説明・算定式	年52週のうち50週収集				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	50	50	50	50	
	実績	50	50	50		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	戸別収集者登録数			単位	世帯
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	50	50	50	50	
	実績	61	72	68		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成24年度の主な取組と成果						
対象者は増加傾向にありますが、一方で施設に入居する等で減少もあり、全体としては微増となっているため、現体制でも対応できました。収集体制の改善に向けた検討を実施し、平成25年度からは専従班を設けるとともに、収集対象を従来の可燃ごみに加え、不燃ごみ、資源再生物、ペットボトル・プラクルに拡充することとしました。 登録者68人(高齢者55人、障がい者13人)平成25年3月31日現在						
平成24年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	該当者は増加の方向にあり、独居高齢者や身体障がい者の自立支援ニーズは高くあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	独居高齢者や障がい者の方の自立支援は継続して事業を進めてこそ成果があるものであり、事業継続による有効性は高くあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	社会的弱者に対して、現行体制で対応するため妥当性は高くあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	戸別に収集することにより、安否確認もできることから、効率性を求めることは難しいですが、収集方法等の改善に取り組めます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		今後、独居高齢者の数は増える傾向にあり、対象者は増えていくと予想されます。今後の対象者の増加に対応する収集体制の確保及び収集対象の増加に対応する効果的収集方法の検討が必要です。		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		高齢者・障がい者のごみの戸別収集	高齢者・障がい者のごみの戸別収集	高齢者・障がい者のごみの戸別収集	高齢者・障がい者のごみの戸別収集
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—	
内訳	職員 (人)	0.44	1.71	1.67	1.57
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		3,634	13,858	13,386	12,479
フルコスト (A+B)		3,634	13,858	13,386	12,479

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成26年度の取組方針	独居高齢者、障がい者からの戸別収集のニーズがあるため、収集体制の改善及び効果的な収集方法を検討しながら、収集を行っていきます。
課長コメント	利用者が大幅に増加した場合への対応が必要となることから、自治会や地域の協力を得て、事業を実施していくことを検討します。